



# 井上道義の 未来だった今より

街の美しさとは何だろうか? 「美しく見える」というのは何故なんだろうか? 僕のサイトで公開しているように10月に行って指揮をしたピョニャンに空を覆うクモの巣のような電線は地中化でほとんど見えなかった。パリ、ロンドン、ペテルブルグ、ウィーンなど、その昔、皇帝や大王など今では悪の象徴という響きにも聞こえる「独裁者、または独裁政権」によってつくられた街は美しい。それはある傾向、ある時代の材料とテクノロジーでつくられた統一感からくるものだ。徳川時代の江戸、平安朝の京都なども見て美しいものではなかったか?

翻って、私有財産権に裏打ちされた今の日本で美しいと言える「大都市」はあるだろうか? そもそも人々は街に美しさを求めているのだろうか? 便利さをトコトン追うが、客観的に美しく見える所はほとんどない。僕は東

京に住んでいるが、いい環境に住もうとすると当然大変なコストがかかる。その上、例えばそれが田園調布などであったとしても、そこに見合う屋敷は相続税で3代と持たないし、今やそれを有効に利用する大きな家族そのものがない。それに「家を建てるため」一生かけて稼ぐなんて本末転倒だ。人生はそんなものじゃないはずだ。

本来、土地は公共のものに近くて良いのだ。特に都市部では英国式に45年や90年の権利とかを買うのが賢い。自分のものであって、人のものでもあることは人間関係にあってもあるべき姿でしょ? あなたという存在は親のものでもないし、恋人や配偶者のものでもないし、子どものものでなく、自分だけのものでもないはずだから。

美しさは誰かのものではないのだ!  
(オーケストラ・アンサンブル金沢)  
音楽監督

♪ 私有権



19

いしかわ

広汎性発達障害とは、社会との関わりがうまくできないなどの問題が発達とともに明らかになる障害だ。近年は研究が進み、その原因が徐々に判明し、治療応用が進められている。だが、幼児の広汎性発達障害については、診断に長時間におよびぶ問診と行動観察が必要で、客観的な脳機能画像診断方法が見つかっていなかった。そして私は、脳機能検査による客観的な早期診断方法の開発が急務であると考えた。

今年度、金沢大学が横河電機や島津製作所と共同で取り組む「広汎性発達障害の診断・治療」